

「フラット35」対応

# 木造住宅工事仕様書

平成27年版

この仕様書は、フラット35の設計検査、工事請負契約等に添付してお使いいただくことができます。



住宅金融支援機構  
Japan Housing Finance Agency

## 5.9 ひさし

### 5.9.1 陸ひさし

1. 型板の取付けは、柱の側面を15mm程度欠き取ったのち、型板を柱にはめ込み、N65くぎ5本を平打ちする。なお、間柱へは、型板を添え付け、N65くぎ5本を平打ちする。
2. 鼻隠しの上端は、ひさし勾配に削る。継手及び取付けは、次のいずれかによる。
  - イ. 化粧の場合の継手は、型板心で相欠き継ぎとし、すみは下端を見付け留め3枚に組む。留付けは、型板に添え付け、くぎ頭つぶし打ちとする。
  - ロ. 見えがくれ（モルタル塗り等）の場合の継手は、型板心で突付け継ぎとする。留付けは型板に添え付け、くぎ打ちとする。
3. 広小舞を取り付ける場合は、型板心で突付け継ぎとし、型板に添え付け、くぎ打ちとする。
4. 野地板は、型板心で突付け継ぎとし、留付けは、板そばを添え付け、型板当たりくぎ打ちとする。
5. 化粧天井板継手は、乱に型板心で相欠き継ぎとし、留付けは、板そばを相じゃくりとし、型板当たりくぎ打ちとする。

### 5.9.2 腕木ひさし

1. 腕木と柱の仕口は、次のいずれかによる。
  - イ. 柱へ下げかまほぞ差しとし、上端よりくさび締めのうえ、くさび抜け止めくぎ打ちとする。
  - ロ. 柱へ短ほぞ差しとし、上端より斜めくぎ打ちとする。
2. 出しげたは 腕木に渡りあご掛け、隠しくぎ打ちとする。
3. たる木掛けは 上端をひさし勾配に削り、たる木彫りをして、柱に欠き込み、くぎ打ちとする。
4. 広小舞は 化粧野地板との取合いを板じゃくりとし、すみを大留めとする。また、たる木に添え付け、くぎ打ちとする。
5. ひさし板は、そば相じゃくりとし、たる木当たりくぎ打ちとする。

## 5.10 パルコニー

### 5.10.1 跳出しバルコニー

跳出しバルコニーの仕様は、次による。

1. 跳出しバルコニーの外壁心からの跳出し長さは、おおむね1m以下とし、これを超える場合は、特記による。
2. 跳出しばりの断面寸法は、荷重の状態、跳出し長さ、はり間隔を勘案して適切なものとし、特記による。
3. 跳出し長さは、屋内側の床ばりスパンの1/2以下とし、先端部分はつなぎばりで固定する。
4. 跳出しばりの継手、仕口は、次の方法とする。
  - イ. 跳出しばりには、原則として継手は設けてはならない。
  - ロ. 仕口は、屋内については、本章5.8.5（2階床ばり）による。
  - ハ. 胴差しとの取合いは、乗せ掛け又は渡りあご掛け、羽子板ボルト締めとする。
  - ニ. 跳出しばりかつなぎばりのT字取合いは、羽子板ボルト締めとする。
  - ホ. イからニによらない場合は、特記による。
5. 根太の断面寸法、受けばりへの取合いは、本章5.8.4（根太）の1から4により、2階根太と同じとする。
6. FRP塗膜防水仕上げの下地板張りは、次による。
  - イ. 下地板はJASに適合する普通合板の1類、構造用合板の1類若しくは特類、又は構造用パネルとする。
  - ロ. 下地板を受ける根太間隔が350mm以下では、下地板は厚さ12mmを2枚張り

5.8.5 103頁

5.8.4の1~4  
102頁

又は15mmを1枚張りとする。

ハ、下地板を受ける根太間隔が500mm以下では、下地板は厚さ15mmと12mmの2枚張りとする。

ニ、専用の勾配付き断熱材を用いる場合は、下地板は厚さ12mmを1枚張りとする。

ホ、イからニによらない場合の下地板張りは、特記による。

7. 下地板は1/50以上の勾配を設け、溝部分では1/200以上の勾配を設ける。2枚以上重ねる場合は、継目が重ならないようにし、目違い、段差及び不陸が生じないようにする。

8. バルコニーの立上り壁の仕様は、両面を外壁外側の仕様とし、外壁内通気を行う場合は、本章8.4(外壁内通気措置)による。これによらない場合は、特記による。

8.4 151頁

### 5.10.2 その他のバルコニー

方づえ式バルコニー、既製金物等によるバルコニー又はルーフバルコニー等は、特記による。

#### 用語

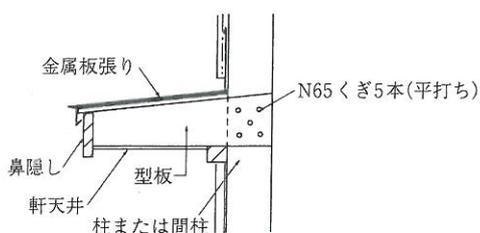
##### 腕木ひさし

柱から腕木を伸ばし、出しげたを載せ、その上に板を載せて金属板でふいたものが一般的である。

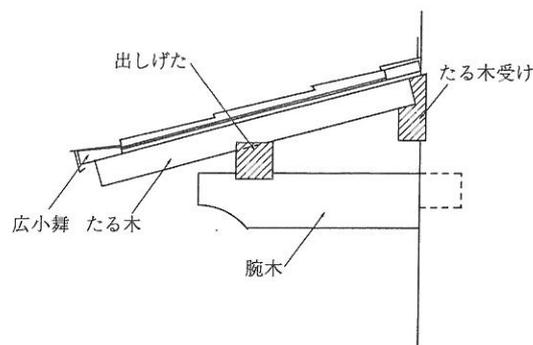
#### 施工方法

##### 陸ひさし

柱または間柱の側面に型板を取り付ける。型板が垂れ下がらないよう、大きくて十分に打ち付ける。次に野地板の上に金属板を張り、軒裏は軒天井を張って仕上げる。この方法は軽い、出の少ないものに用いる。



参考図5.9.1 陸ひさし



参考図5.9.2 腕木ひさし

#### 留意事項

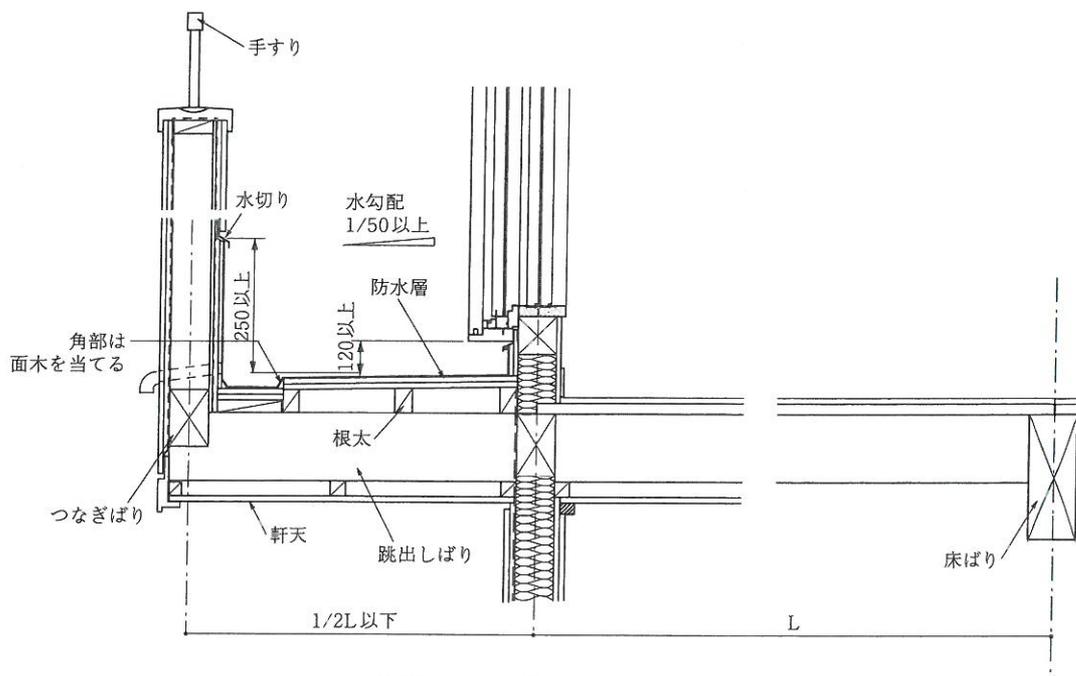
##### バルコニーの構造躯体と防水下地板

バルコニー形式には、跳出し式、方づえ式、既製品を用いるもの、ルーフバルコニーなどさまざまな形式がある。バルコニーの構造は、バルコニー形式に応じて、積載荷重によるたわみなどが生じないように留意する必要がある。

特に、ルーフバルコニーの場合は、下階への雨漏りが懸念されるため、たわみにより防水層の破断や欠損が生じないように、強固に設計することが望ましい。

また、バルコニーの水勾配が両方向となる場合の下地板の頂部継目部分は、防水上の弱点となりやすいので、適切に目地処理を施す。

なお、バルコニー下地板に一定の防火性能が求められる場合は、防火性能の高い防水下地板の使用を検討する必要がある。



参考図 5.10 跳出しバルコニーの取合いの例

**5.11 住戸間の界壁**

連続建ての住戸間の界壁の仕様は、本章17.1.5 (界壁)による。

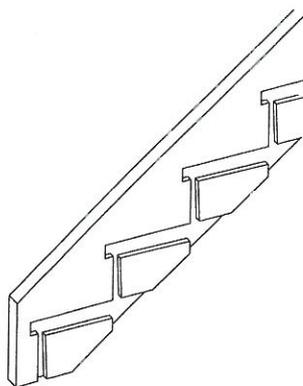
17.1.5 211頁

### 8.14.2 その他の階段

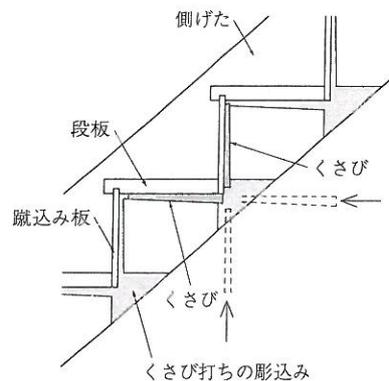
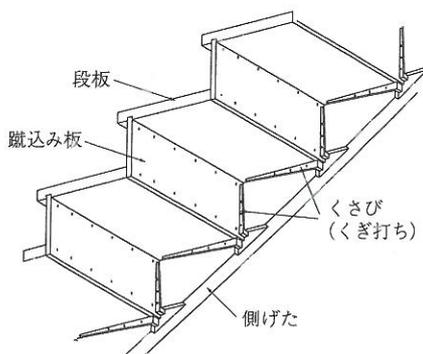
側げた階段以外の階段とする場合は、特記による。

### 8.14.3 階段手すり、すべり止め

階段には手すりを設けるとともに、必要に応じて、すべり止め等の措置を講ずる。



参考図8.14.1-1 側げた



参考図8.14.1-2 段板及び蹴込み板

### 関係法令

#### 階段手すり

平成12年4月26日付で改正された建築基準法施行令第25条第1項において、「階段等の手すり等」について、次のように定められた。

- ・ 階段には、手すりを設けなければならない。
- ・ 階段及びその踊り場の両側（手すりが設けられた側を除く）には、側壁またはこれに代わるものを設けなければならない（いずれも、高さ1m以下の階段の部分には適用しない）。

## 8.15 バルコニーの床防水

### 8.15.1 バルコニー床をFRP塗膜防水仕上げとする床下地

バルコニー床をFRP塗膜防水仕上げとする床下地は、本章5.10.1（跳出しバルコニー）の6による。 5.10.1の6 110頁

### 8.15.2 FRP塗膜防水

1. FRP塗膜防水は、ガラスマット補強材を2層以上としたものとする。仕様は、JASS 8に規定するL-FF又はこれと同等以上の防水性能を有するものとする。なお、防水層の上にモルタル等の仕上げを施す場合は、各製造所の保護仕様のものとする。
2. 防水層の立上り高さは、外部開口部の下端で120mm以上、それ以外の部分で250mm以上とする。

### 8.15.3 防水層立上りの建具まわり止水

1. サッシ取付けに対して防水工事があと施工となり、防水層を直接サッシ枠に重ねる場合は、次による。
  - イ. 防水層は、サッシ下枠及びたて枠のくぎ打ちフィンの幅全体をおおう。くぎ打ちフィン面は、十分目荒らしをし、プライマーを塗布して、塗りむら等が生じないように防水層を施工する。
  - ロ. サッシ枠と防水層端部の取合い部には、シーリング処理を施す。サッシたて枠と防水層立上りの取合い部についても同様とする。
2. サッシ取付けに対して、防水工事があと施工となり、窓台部に先張り防水シートを張ってサッシまわり止水を行う場合は、次による。
  - イ. 防水層を施工する部分のサッシの枠まわりには、本章11.1.4(建具まわりの止水)

11.1.4の1~5  
191頁

- の1から5により建具まわり止水を施す。
- ロ. 防水層の立上り下地板を張る。防水層立上り下地板とサッシ枠との間には、シーリング目地を設ける。
  - ハ. シーリング目地は、目地内部をプライマー処理し、目地底にボンドブレイカーを施してシーリング材を充填する。なお、目地底が深い場合には、バックアップ材を充填する。
3. サッシ取付けに対して、防水工事がさき施工となり、防水層の立上げを窓台上端までとする場合は、次による。
- イ. 防水層は、立上り下地板の上端部まで施工する。
  - ロ. サッシたて枠と取り合う防水層端部には、シーリング処理を施す。
  - ハ. 防水層にサッシが取り付く範囲は、くぎ打ちフィンと防水層の間に、防水上有効なパッキング材等を挿入する。ただし、これによらない場合は、特記による。
4. サッシ取付けに対して、防水工事がさき施工となり、壁内側へ防水層を巻き込む場合は、次による。
- イ. 防水層は、サッシ取付け部の窓台まで施工する。
  - ロ. サッシ下枠が載る巻き込み防水層上面は、防水層の塗厚を均一とし、サッシ枠にゆがみが生じないように施工する。
  - ハ. 防水層を柱の側面まで立ち上げる場合は、サッシたて枠の取付けに支障が生じない立上げ方とする。
  - ニ. 防水層にサッシが取り付く範囲は、サッシくぎ打ちフィンと防水層の間に、防水上有効なパッキング材等を挿入する。ただし、これによらない場合は、特記による。
5. 3及び4において、サッシたて枠が防水層に取り付く部分は、その上部の防水層がない部分との下地面の差により、サッシ枠にゆがみが生じないように防水層の厚さを調整する。ただし、防水層の厚さによる調整としない場合は、特記による。

#### 8.15.4 その他の防水工法

その他の防水工法は、各製造所の仕様によるものとし、特記による。

#### 8.15.5 排水処理

1. 排水ドレインは、原則として複数箇所設置する。やむを得ず1箇所となる場合は、オーバーフロー管を設ける。
2. バルコニーの排水管は、原則として屋内を通らない経路とする。ただし、やむを得ず屋内を経由する場合は、適切な防水処理および結露防止措置を行い、点検口を設置する。

#### 留意事項

##### FRP防水層とモルタルの関係

FRP防水層の表面にモルタルを仕上げ塗りする場合は、FRP防水層は表面保護仕様とする必要がある。防水層の表面を露出して仕上げる不飽和ポリエステル樹脂等によるFRP防水層は、アルカリ成分により侵される性質がある。そのため、FRP防水にモルタル塗りをする場合は、防食用ポリエステルや防食用ビニルエステルを用いるなど、FRP防水層をアルカリ成分より保護する仕様とする。

##### バルコニー床防水

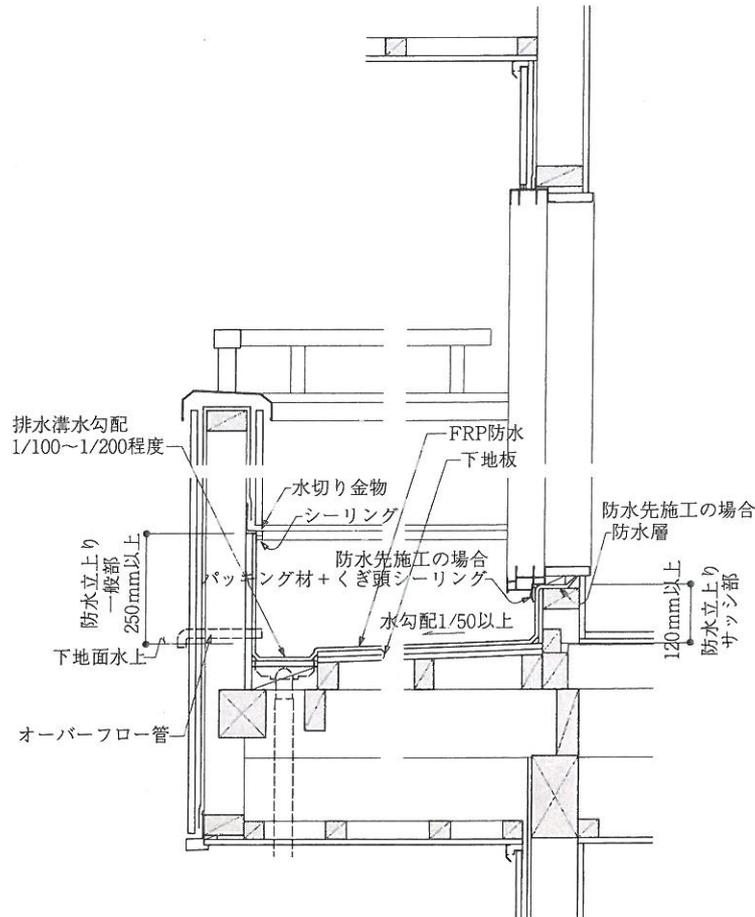
バルコニーからの雨水浸入を防ぐため、次の事項に留意することが望まれる。

- ① バルコニーにはなるべく屋根を設けて、床面および防水立上り部分を雨がかりとしない。
- ② 防水下地板は、ゆがみや目違いによる防水層の破断が生じないように、堅固にする。
- ③ 床の勾配は十分にとり、バルコニーの奥行や幅が大きい場合は、なるべく排水溝を設ける。
- ④ 防水層の立上りは、所定の高さ以上を確保する。
- ⑤ 防水層の端部処理は、雨水浸入を防ぐため十分考慮されたおさまりとする。
- ⑥ サッシ枠にシーリング処理を行う場合は、十分な塗厚および重ね代を確保する。

⑦ 排水ドレインは複数設置を原則とし、防水のおさまりが十分考えられた製品を使用する。

⑧ オーバーフロー管は、最も低い防水層立上り上端より低い位置に設ける。また、オーバーフロー管の貫通部（両側）は、シーリング処理を行う。

なお、バルコニー防水に係る仕様は、本章5.10（バルコニー）、本章8.15（バルコニーの床防水）、本章8.16（バルコニー手すり）、本章11.1（外部建具及び止水）に記載している。設計、施工にあたっては、関係する各項目の仕様を十分に考慮し、適切な仕様とする必要がある。



注) オーバーフロー管は、最も低い防水層立上り上端より低い位置に設ける。

参考図8.15-1 バルコニー床防水例

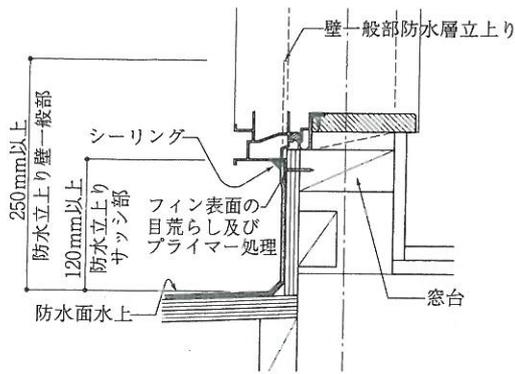
### 施工方法

#### サッシ下部の防水立上りおさまり

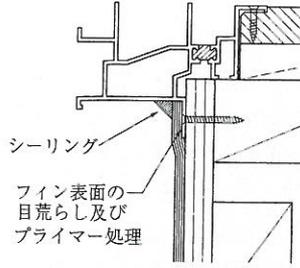
サッシ下部の防水立上りおさまりは、サッシ取付けに対して、防水工事が「あと施工」となる場合と「さき施工」となる場合で異なる。

防水工事が「あと施工」となる場合（参考図8.15-2 サッシ下部の防水立上りおさまり例(A)及び(B)）は、サッシと防水層またはシーリング材の剥離が生じた場合、雨水浸入の危険性が高まるので注意する。また、防水層がサッシたて枠に沿って立ち上がるため、サッシたて枠と防水層端部との取合い部のシーリング処理が重要となる。

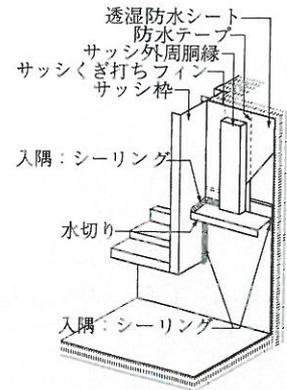
防水工事が「さき施工」となる場合（参考図8.15-2 サッシ下部の防水立上りおさまり例(C)及び(D)）は、サッシの内側に防水層が施工されるため、防水性能は高まるが、サッシ固定用のくぎが防水層を打ち抜くため、防水上の欠点になりやすいので注意する。また、くぎ打ちによるFRP防水層の割れを防ぐため、あらかじめFRP防水層にくぎ打ちのための下穴をあけておくことが望ましい。なお、壁一般部の立上り防水層が、サッシたて枠と柱との間に挟み込まれるため、防水層の厚さがサッシ建込みに影響を及ぼさないよう注意する。



(a) サッシ枠下端

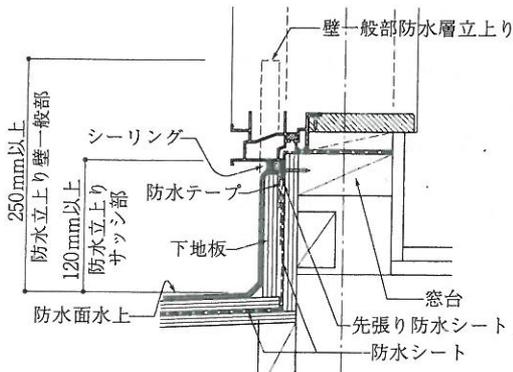


(b) サッシ枠下端詳細

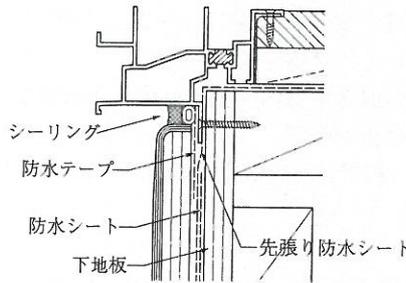


(c) サッシたて枠のシーリング処理

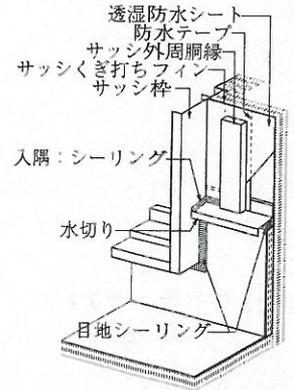
(A) 防水工事があと施工となり、防水層を直接サッシ枠に重ねる場合



(a) サッシ枠下端

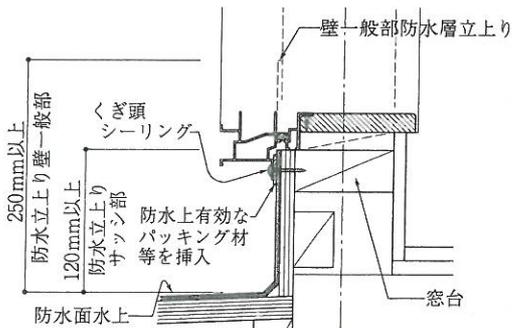


(b) サッシ枠下端詳細

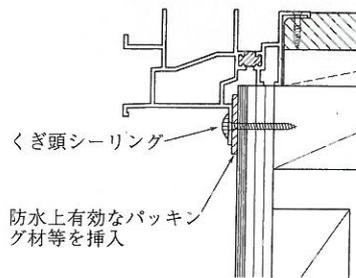


(c) サッシたて枠のシーリング処理

(B) 防水工事があと施工となり、窓台部に先張り防水シートを張ってサッシまわり止水を行う場合

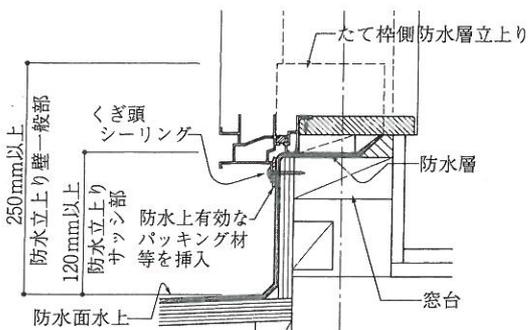


(a) サッシ枠下端

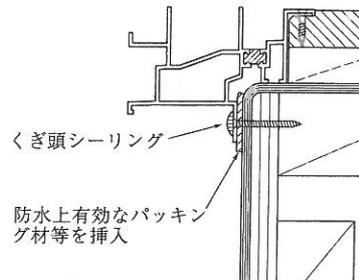


(b) サッシ枠下端詳細

(C) 防水工事がさき施工となり、防水層の上げを窓台上端までとする場合



(a) サッシ枠下端



(b) サッシ枠下端詳細

(D) 防水工事がさき施工となり、壁内側へ防水層を巻き込む場合

参考図8.15-2 サッシ下部の防水立上りおさまり例